

資料館の動き

これまでの出来事（平成24年度下半期）

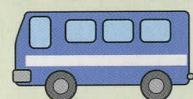
- 平成24年
- 10月 6日(土) 語り部による伝承会
  - 11月 6日(火) 入館者3万人（年間目標）達成
  - 11月27日(火) 第1回イタイタイ病資料館運営会議開催（県民会館）
  - 12月14日(金) イタイタイ病対策協議会から「一審判決文の書」が寄贈
  - 26日(水) 小学校教員向け研修会
- 平成25年
- 2月13日(水)、14日(木) イタイタイ病映像展（富山市民プラザ）
  - 2月16日(土) イタイタイ病を考える県民フォーラム

平成25年度の主な行事予定 \*今後変更する可能性があります

- 8月 2日(金)、3日(土) 夏休み自由研究講座  
イタイタイ病を学ぼう  
イタイタイ病教室、語り部と回る展示見学、水の実験 など  
\*対象は、小学校高学年とその保護者
- 8月 9日(金) イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー  
神岡鉱山（排水処理施設、たい積場など）や復元田をバスで見学  
\*対象は、小学校高学年とその保護者など
- 9月28日(土) 語り部による伝承会  
四大公害病の語り部らによる講話・意見交換会 など
- 12月26日(木) イタイタイ病資料館活用研修会  
解説付き展示見学、語り部講話、資料館活用講義 など  
\*対象は、小学校教員
- 2月15日(土) イタイタイ病を考える県民フォーラム

無料送迎バスを提供する  
課外学習サポート事業の利用校募集

多くの子どもたちにイタイタイ病を学んでもらえるよう、学校などに無料送迎バスを提供する「課外学習サポート事業（環境省委託）」を実施します。新年度は、学校以外の県内施設からの送迎も可能にし、大学での利用も対象に加えました。たくさんのご利用をお待ちしています。  
詳しくは、資料館のホームページをご覧ください。



メールマガジン  
【登録者募集中】

月に1回、資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】

発行／富山県立イタイタイ病資料館  
(平成25年3月発行)

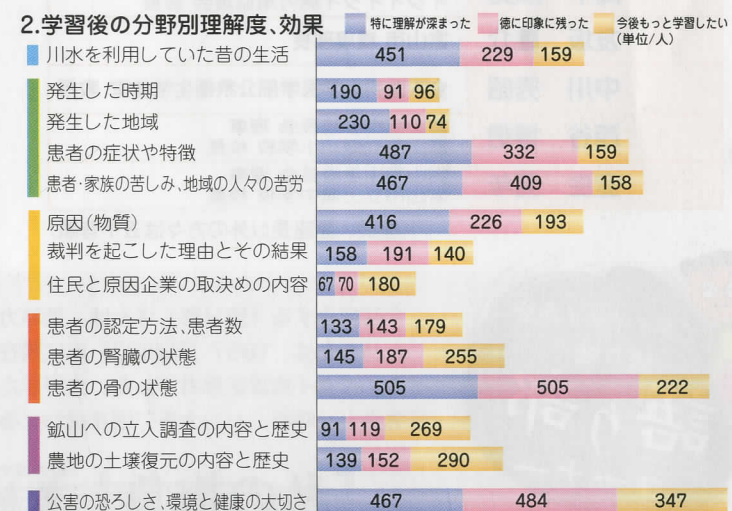
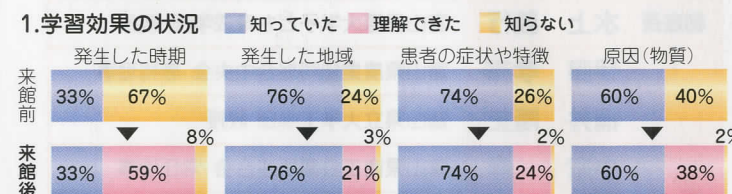
〒939-8224 富山県富山市友杉151番地（とやま健康パーク内）  
電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833  
URL▶http://itaitai-dis.jp



子どもたちの「理解」と「興味」が深まっています

資料館に課外学習で訪れた小中高生の学習成果について調べた結果、①イタイタイ病の発生時期、②発生地域、③患者の症状や特徴、④原因（物質）の理解度については、来館前に「知らない」と答えた子どもたちでも、来館後には、その約9割が「理解できた」と回答しています。

また、展示室で紹介する各分野のうち、「特に理解が深まった」「特に印象に残った」「今後もっと学習したい」と思うものを調査していますが、いずれも「公害の恐ろしさ、環境と健康の大切さ」が高い数値を示しており、資料館での学習で一定の成果が出ていると感じています。



「課外学習サポート事業」利用者調査結果（2012年度中間とりまとめ）  
調査対象／小中高生、1,066人（20校）

子どもたちの「学びの証」を  
ご覧いただけます

子どもたちが資料館を見学した後に、まとめた資料やレポートなどを2階の資料閲覧室で紹介しています。  
子どもたちの学びの証ともいえる「力作」をぜひご覧ください。



資料館だより

2013年 春号

平成25年  
2月16日  
イタイタイ病を考える  
県民フォーラム



イタイタイ病を考える県民フォーラム  
公害病に学び、教訓を未来へ～

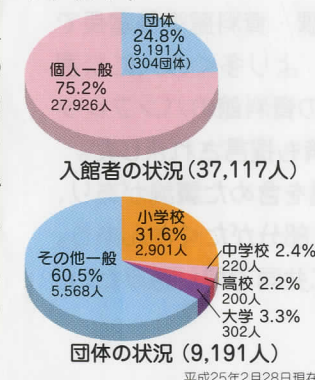


さらに学びたくなる資料館をめざして

富山県立イタイタイ病資料館 館長 鏡 森 定 信

平成24年4月29日の開館以来、おかげさまで海外の方も含め、多くの方にご来館いただいています。

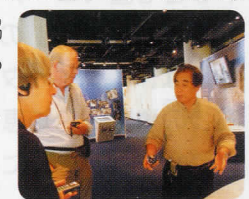
平成25年2月末までに37,117人が来館され、団体利用は、全体の4分の1を占めています。団体利用者の半数近くが、富山市内の方で、また、3分の1は、小中学校での利用でした。来館された学校からは、学級発表会や学校新聞など、学びの成果が寄せられており、うれしい限りです。



さて、新年度は、主要行事の日程をすでに決定し、その周知にあたり、メールマガジンや資料館だよりの活用、館外での映像・パネル展の開催などで、より一層多くの方々とのつながりを深めていきます。また、来館されるたびに学びが深まるよう、いただいた感想・コメントをスタッフ全員で共有し、館の運営の改善に努めます。

知識が増えるだけでなく、さらに学びたくなる（The more see, the less know ; 学ぶほど理解不足であることを知る）資料館をめざします。そのために、語り部さんや解説ボランティアさんとの協働、1階の詳しく調べるコーナーや2階の資料閲覧室の利活用の促進に、一層取り組みます。

新年度も是非、ご来館ください。



- 四大公害病に学び、教訓を未来へ… 2
- 資料館同士が連携し、公害の教訓を継承します… 2
- 魅力的な資料館をめざして… 3
- 語り部コーナー… 3
- 資料館インフォメーション… 4





## 四大公害病に学び、教訓を未来へ

平成25年2月16日、資料館で「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。イタイイタイ病だけでなく「四大公害病に学び、教訓を未来へ」という大きなテーマで実施。県内外から約120名もの参加がありました。

石井知事の挨拶に続き、鏡森館長が昨年4月の開館以来の入館状況や実施事業を報告しました。その後、資料館での見学を機に、イタイイタイ病について熱心に学習された小中学校と大学の学生たちから、その学習成果が発表されました。

午後からは、明治大学理工学部の北野大教授をお招きし、「地球環境を救う新しいライフスタイルへ」と題した講演会を開催。ユーモアを交えながら、環境問題についてわかりやすく解説していただきました。

締めくくりは、全国で初めて四大公害病の資料館長等が一堂に会するシンポジウムを行い、資料館同士の連携策などについて話し合いました。



## 資料館同士が連携し、公害の教訓を継承します

### 【10月】語り部伝承会



水俣病と新潟水俣病の語り部をお招きし、「語り部による伝承会」を開催しました。まず、水俣市立水俣病資料館の緒方正実さん、新潟県立環境と人間のふれあい館の小武節子さん、イタイイタイ病資料館の高木良信さんと小松雅子さんが順に語り部講話を実施。続いて、イタイイタイ病対策協議会の高木会長にも参加いただき、「公害をいかに後世に伝えるか」と題した意見交換会が行われました。関係者の高齢化や後継者の問題などを抱えつつ、実施されている語り

部活動について活発に話し合われ、子どもたちに公害の事実と教訓を伝えることの重要性が再確認されました。今後は、四日市ぜんそくも含めた語り部の相互交流を深めていくことになりました。

### 【2月】県民フォーラム・シンポジウム

四大公害病資料館の館長等によるシンポジウムでは、水俣市立水俣病資料館の坂本館長と新潟県立環境と人間のふれあい館の塚田館長から、それぞれ公害病の差別や偏見をなくし、教訓を伝えるための取組みが報告されました。また、イタイイタイ病対策協議会の高木会長からは、被害者団体として担ってきた役割と長年にわたる活動の成果が伝えられ、今後の資料館連携による公害病の教訓継承に期待が寄せられました。

平成26年度中に資料館が完成予定の四日市市の環境保全課・資料館準備室長である樋口副参事は、「資料館が連携して情報発信できれば、より多くの人に公害を知ってもらえる」と述べられ、会場から「各資料館に他の資料館のパンフレットなどを置くコーナーを設ければよい」という連携の具体策も提言されました。

また、「語り部」の高齢化という共通の課題について、会場を含めた議論があり、最後は、イタイイタイ病資料館の鏡森館長が、「連携できる部分がたくさんある。四つの資料館で知恵を出し合い、まずは、語り部育成などに共同で取り組みたい」と締めくくりました。



### 参加者の声

「連携」というと聞こえがいいだけで、あまり進展しない気がします。今日の会は、具体的なアイデアが生まれ、建設的でした。

(富山市内30歳代・女性)

広く一般の方を対象に自己負担で各資料館を訪れるツアーを企画してみてもいいのでは？

関係者間の連携だけでは、次世代につながらないのでは。

(富山市内60歳代・男性)

各館長の取組みに、大変熱い思いが感じられました。

(富山市内60歳代・男性)

## 魅力的な資料館をめざして

### 効果的な運営をめざして

#### 第1回資料館運営会議を開催

より円滑で効果的な運営を行うため、これまで資料館設置に関わってこられた有識者等で構成する「イタイイタイ病資料館運営会議」を設置しました。平成24年11月に開催した第1回会議では、入館者が順調に伸びていることが評価される一方、夏休みの子供向けイベントについて、教育委員会や学校との連携、メールマガジンを活用した広報などの積極的な誘客策が必要との意見をいただきました。

#### 運営会議メンバー

座長	谷 修一	国際医療福祉大学 名誉学長
副座長	水上 義行	富山国際大学子ども育成学部 教授
	伊藤 孝邦	富山県農業協同組合中央会 専務理事
	楠井 隆史	富山県立大学工学部 教授
	小室 修	富山県商工会議所連合会 常任理事
	高木 勲寛	神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会 代表 イタイイタイ病対策協議会 会長
	友坂 義介	富山市 環境部長
	中川 秀昭	金沢医科大学医学部公衆衛生学教室 教授
	西谷 博信	富山県小学校長会 理事 富山市立蛸川小学校 校長
	室生 晃年	富山県中学校長会 理事 富山市立上滝中学校 校長

(座長、副座長以外の方々は五十音順)



今回紹介する「語り部」さんは、若林カズ子さんです。

若林さんは、1957（昭和32）年に現在の富山市婦中町に嫁いでこられましたが、夫の祖母であるセキさんが、イタイイタイ病認定患者でした。大好きだったセキばあちゃんと過ごした11年間の思い出をハキハキと語られる若林さん。時折、ハンカチで涙を拭かれる場面もあり、被害の実態が、聴講者の心に深く刻み込まれています。

### 『私の抱負』<sup>わかばやし</sup> 若林カズ子さん(77歳)



嫁いで来た頃のセキばあちゃんは、大きな体格でしたが、体が「くの字」に曲がっていました。「痛いや。痛いや。」といった、握りこぶしで腰や足をたたきながら、農作業に励んでいました。症状が進み、床に伏すようになってからは、食事をとるのも辛い状態なのに、「痛い」「痛い」という大きな声が部屋中に響き渡り、着物はいつも汗と脂で湿っていました。風呂に入るのも、二人がかりでハンモックに乗せて運ぶという大変なものでしたが、家族みんなおばあちゃんが大好きでした。

しかし、さらに症状が悪化した1968（昭和43）年の大晦日。「あんちゃん、抱っこして・・・」との願いを最後に私の夫の腕に抱かれ、86歳で亡くなりました。骨が溶けたように体が小さく、若い頃の体格からは、想像もできませんでした。

痛みに絶えながらもいろんなことを教えてくれたセキばあちゃんが、苦しみ亡くなった現実を、元気な体が続く限り、訴えています。

語り部講話の聴講者を募集しています  
対象は10名以上の団体で、事前申込（先着順）が必要です。  
詳しくは資料館のホームページをご覧ください。

### 有効に活用いただくために

#### 小学校教員向け研修会を開催

県内の小学校から30名の先生が参加され、まずは、実際に来館したときの学習メニュー（ガイダンス映像⇒展示解説⇒語り部講話）を体験しました。その後、イタイイタイ病の副読本を監修された水上義行氏（富山国際大学子ども育成学部教授）による講義を開催。社会科や道徳、総合的な学習の時間に資料館を訪れ、イタイイタイ病を通して「①いのちの尊さ」「②自然破壊への代償」「③共生社会への道筋」を教えていく方法などが示されました。



### 参加者の声

イタイイタイ病を教材として、富山県人が学んだことを風化させないように子どもたちに伝えていくための大きな拠点ができたと思いました。

(40歳代・男性)

なぜ今、イタイイタイ病を教材とするのかが、はっきりわかりました。

(50歳代・女性)

### 語り部講話の感想

イタイイタイ病になった方々は、本当につらく苦しい思いをして、生きたんだなあと、あらためて感じました。

(小学生・女子)

イタイイタイ病は、骨が溶けたように小さくなり、軽くなるからすごい怖い病気だと思いました。そして、絶対にこの病気を繰り返してはいけないと思いました。

(小学生・男子)

涙がとまりませんでした。イタイイタイ病のことは知っているつもりでも、実際にお話を聴くと、環境と健康の大切さを実感できました。

(40歳代・女性)

実体験にもとづく話は、胸に迫る。多くの先人の方の苦勞の上に今の平穏な生活があるのだと感じた。とくに若い人たちにこの歴史を伝えていかなければならない。

(50歳代・男性)

